

## ドイツ語（初級 A） 第 12 回 命令文、分離動詞、非分離動詞

範囲：教科書 S. 32-34（CD トラック 42-47）

### 《今回の基本例文》

39. Bleib zu Haus! (CD42-1)

（お前は）家にいろ！

[**du** に対する命令形（命令法）]

40. Antwortet auf meine Frage! (CD42-3)

（お前たちは）私の問いに答えろ！

[**ihr** に対する命令形（命令法）]

41. Fahren Sie mit der U-Bahn! (CD42-2)

（あなたは／あなたがたは）地下鉄で行ってください。

[**Sie** に対する命令形（接続法）]

42. Sei vorsichtig! (CD43-1)

（お前は）気をつけろ！

[**sein** の命令形（命令法）]

43. Lies laut! (CD44-1)

（お前は）大きな声で読め！

[**幹母音が e→i/ie に変音する動詞の命令形**（命令法）]

44. Der Zug fährt pünktlich ab. (CD45-2)

その列車は時間通りに出発する。

[**分離動詞**]

45. Kannst du mich morgen wieder anrufen? (CD47-4)

明日もう一度、（君は）私に電話できるかな？

[**分離動詞＋話法の助動詞**]

教科書第 7 課 A. 命令文 (S. 32)

### 教科書 1 命令形

◇ 英語と異なり、ドイツ語の命令形には、du (2 人称親称単数) に対するもの、ihr (2 人称親称複数) に対するもの、Sie (2 人称敬称単数、複数) に対するものの三種類がある。

\* 上記の三つのうち、厳密には、**du** に対するものと **ihr** に対するものは**命令法**（直説法、命令法、接続法の三つの「法」のうちの一つ）であるが、**Sie** に対するものは**接続法**（授業第 11 回で少し説明したように英語の仮定法に相当するもの）である。これらをまとめて扱うため、便宜的に「命令形」や「命令文」という言葉を用いている。

◇ 普段 **du** や **ihr** を用いて話している相手に対しては **du** や **ihr** に対する命令形を、**Sie** を用いて話している相手には **Sie** に対する命令形を使用する。

\* 日本語でいえば、「～しろ」や「～せよ」が前者に、「～してください」などが後者に相当すると考えればよい。

◇ 命令形の作り方については、

・基本公式

・sein

・単数 2・3 人称で幹母音が e→i/ie に変音する動詞 (⇒教科書 S. 16)

の 3 パターンを覚えればよい。

◇ **du** に対する命令形 (=命令法) の基本公式は、

・**語幹のみ**、もしくは**語幹+e** (現在人称変化の 1 人称単数と同じ)

\* 口頭では語幹のみが好まれる。

・ただし、現在人称変化の **du** や **er** に語調を整える **e** が現れる動詞 (**arbeiten**, **finden** など ⇒教科書 S. 9)、**-ern**, **-eln**, **igen** などで終わる動詞 (⇒教科書 S. 10) については、必ず**語幹+e**になる。

◇ **ihr** に対する命令形 (=命令法) の基本公式は、

・**語幹+t** (現在人称変化の 2 人称複数と同じ)。

・ただし、現在人称変化の **du** や **er** に語調を整える **e** が現れる動詞 (**arbeiten**, **finden** など ⇒教科書 S. 9) については、必ず**語幹+et**になる。

◇ **Sie** に対する命令形 (=接続法) の基本公式は、**語幹+en** (不定詞と同じ) のあとに主語 **Sie** を添える。**Sie** に対する命令形は決定疑問文と同じかたちになるが、疑問符ではなく**感嘆符**を用い、発音は文末を上げずに下げる。

(例) Sprechen Sie Deutsch? あなたはドイツ語を話しますか?

Sprechen Sie Deutsch! ドイツ語を話してください。

ほか、**bitte** など命令形と併用する副詞的表現の有無などによっても区別できる。

\* **du** や **ihr** に対する命令形では主語が要らず、**Sie** に対する命令形だけ主語が必要なのは、前者が命令法、後者が接続法だからである。一般に、命令法では主語を必要としない (英語ほかを参照)。

◇ 命令形と一緒に使用できる副詞的表現としては、

・依頼を表す **bitte** (英語の *please* に相当)

\* 何度も出てきた動詞 **bitten** (*vt.* 頼む、願う) の 1 人称単数系。

・強意を表す **nur**, **doch**

・「ちょっと」の意味になる **mal**

などがある。

## 教科書<sup>2</sup> sein, werden の命令形

- ◇ sein の命令形は、
- ・ du に対しては **sei**
  - ・ ihr に対しては **seid**（現在人称変化の 2 人称複数と同じ）
  - ・ Sie に対しては **Seien Sie...**
- と、すべて“sei”が現れる不規則なかたちをとる。
- ◇ werden の命令形は、語幹が-t や-d で終わる規則動詞（arbeiten や finden など）と同じと考えて差し支えない。

## 教科書<sup>3</sup> 単数 2・3 人称で幹母音が e→i/ie に変音する動詞の命令形 （S. 33）

- ◇ 教科書第 3 章で学んだ、単数 2・3 人称で幹母音が変音する動詞のうち、
- ・ a→ä 型：基本公式と同じで変音はしない。
  - ・ e→i/ie 型：du に対する命令形は変音し、なおかつ語尾に-e はつけない。 ihr および Sie に対する命令形は基本公式と同じ。

### 〈命令形のまとめ〉 （補足）

- ◇ 以上をまとめると下表の通り（太字、下線部に注意）。

不定詞	対 du	対 ihr	対 Sie	備考
lernen	Lern! / Lerne!	Lernt!	Lernen Sie!	基本公式
arbeiten	Arbeite!	Arbeitet!	Arbeiten Sie!	現在人称変化に e が現れる動詞
ändern	Ändere!	Ändert!	Ändern Sie!	-ern, -eln で終わる動詞
helfen	Hilf!	Helft!	Helfen Sie!	幹母音が e → i に変音する動詞
sehen	Siehe!	Seht!	Sehen Sie!	幹母音が e → ie に変音する動詞
sein	<b>Sei!</b>	<b>Seid!</b>	<b>Seien Sie!</b>	sein（完全不規則）
werden	Werde!	Werdet!	Werden Sie!	werden（実は基本公式に従う）

## 教科書第 8 章 B. 分離動詞 （S. 33）

### 〈分離動詞と非分離動詞について〉 （補足）

- ◇ ドイツ語には、**前綴り**＋基礎動詞という構成の複合動詞が存在する。すでに何度か登場しており、

（例）verstehen = ver + stehen （⇒教科書 S. 30）

複合動詞 前綴り 基礎動詞

などが該当する。

- \* 複合動詞の発音は基礎動詞に準拠するので、verstehen の場合、st は語中ではなく語頭という扱いとなり、[ʃt]の音となる。（⇒授業第 2 回配付資料 S. 3）

- ◇ 複合動詞には次の 2 種類があり、
- ・ **分離動詞** : (主文の) 定動詞として使われる際、前綴りが基礎動詞から分離して文末に移動する。前綴りはアクセントを持つ。
  - ・ **非分離動詞** : 定動詞として使われる際、前綴りが基礎動詞から分離しない (一般動詞と同じ)。前綴りはアクセントを持たない。

分離動詞はドイツ語における独特な要素といえる。

- \* 英語の *give up* のような句動詞に相当するものが分離動詞と考えられる。
- \*\* 上記の *verstehen* は非分離動詞の方。

- ◇ 分離動詞の前綴りは、
- ・ *auf|stehen* (起き上がる) の *auf-* など前置詞
  - ・ *teil|nehmen* (参加する) の *teil-* など名詞 (*Teil m.* 部分)
    - \* *an et<sup>3</sup>. teil|nehmen* *et<sup>3</sup>.* に参加する (= *take part in* ~)
  - ・ *fern|sehen* (テレビを見る) の *fern-* など形容詞
  - ・ *zusammen|fassen* (要約する) の *zusammen-* など副詞 (*zusammen adv.* 一緒に)
  - ・ *sitzen|bleiben* (留年する) の *sitzen-* など動詞
- のように、前置詞、名詞、形容詞、副詞、動詞と多様であり、ほぼ元の語の意味を保存している。

- \* ただし、前綴りの元の意味 + 基礎動詞を合算するだけでは意味を類推できない場合も多いので、分離動詞が出て来たら必ず辞書を引くこと。

## 教科書 1 分離動詞の語順

◇ 分離動詞が主文の定動詞として用いられるときは、前綴りは基礎動詞 (の人称変化形) から分離して文末に置かれる。

◇ 分離動詞の前綴りを文末に置くのは、定動詞と関係の強い要素 (= 不定詞句において最後尾の不定詞の 1 つ前に来る要素) ほど定動詞第 2 位から離して文末に移動させるという **枠構造** の一種である。これまで登場した枠構造を不定詞句とともに振り返ると、

・ heute Abend eine Flasche Wein trinken

← ← ← ← ← ← ← ← ←

Er [ trinkt heute Abend eine Flasche Wein ] .

【他動詞】と 4 格目的語】 今晚、彼はワインを 1 本飲む。

・ heute Abend nach Osaka fahren

← ← ← ← ← ← ← ← ←

Er [ fährt heute Abend nach Osaka ] .

【移動を表す自動詞】と 目的地を示す前置詞句】 今晚、彼は大阪に行く。



◇ 分離動詞と非分離動詞に共通して用いられる前綴りがついている動詞のなかには、まったく同じ複合動詞でも、分離動詞として使うときと非分離動詞として使うときとで意味が異なるものがある。

（例）über|setzen *vi.* 対岸に渡る、*vt.* ～を対岸に渡す

übersetzen *vt.* ～を翻訳する

\* 一般に、分離動詞は具体的意味、非分離動詞は抽象的意味という傾向がある

#### 連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 教員のウェブサイト：<http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>